

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄りそう心 つながる想い」の運営理念のもと、日々意識しながら実践に繋がっています。事務所内に掲示し、朝礼やミーティング等の際にみんなで確認するようにしています。	「寄りそう心 つながる想い」の運営理念を、職員個々に「どういう事なんだろう。どう思っているか」を問いながら真剣に考え、職員全体で振り返ることで理念の共有につながっている。また、事務所内の掲示に留まらず、今後は玄関にも掲示し意志統一を図る予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会長、民生委員、地区の消防団員の方に参加していただいています。広報誌の回覧や地元保育園からの慰問をしていただいたり、近隣の方から花や作物を差し入れていただくこともありました。	広報誌は地区のコミュニティセンター等にもおいてあり、温かい家庭的な雰囲気が伝わる内容で情報発信の役割を担っている。実習生の受け入れやボランティアの来所もあり、近隣の方から頂いた花は、玄関やユニット内で飾る利用者もおり喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「医療・保健・福祉を考える会」に所属しており、定期的に行われる地域懇談会にて事業所の取り組み・実践等お話しさせていただいています。地元中学生の職場体験、趣味のサークルの方々の見学を受け入れました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて近況報告を行っています。出席者からいただいた意見をサービス向上に活かしています。	運営推進会議には町内会長、民生委員、地区消防団員の方等が参加している。事業所から状況報告およびサービスの実際について報告し、参加者からの情報や意見、提言を運営に反映させている。	事業所では会議を通して、より地域に開かれた施設運営を目的に取り組んでいる。今後は、さらに現場職員の継続した参加と事業所に生活している利用者・家族もメンバーに入っただき、より開かれた運営推進会議になって行くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や困った事は市役所の担当者にすぐに確認、相談、指導していただいています。	運営推進会議に市の担当職員が参加している。分からないことなどは、電話をしてスムーズな連携が図られている。包括支援センターが主催する「地区の医療保険福祉を考える会」に所属し、研修や事業所の取り組みを伝えながら、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルをもとに勉強会を実施しました。日中、玄関は自由に出入りができるようにしていますが夜間は防犯上の観点から施錠しています。	法人内の研修に参加し、報告し合うことで日頃のケアの振り返りを意識している。また、個別の生活習慣を把握することで、必要となる見守りや寄り添いが行われ、目配りしながら身体拘束をしないケアの取り組みが行われている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルと外部で行われた研修会資料をもとに、内部研修を実施し、具体的な学びを実施しました。	職員は法人内の研修で「高齢者虐待防止関連法」について、理解を深め意識合わせを行っている。声掛け等はお互いに気付いたら「こうした方がよかったよ」と気軽に言い合えるよう、管理者は積極的に職員とコミュニケーションを図り、ストレス軽減にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修会の参加を通して、制度への理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧で分かりやすい説明を心がけ、理解・納得していただいたうえで署名、捺印していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時や電話等で意見、要望を聞き取っています。事務所カウンター前に意見箱を設置しています。	毎月家族レターを送付しながら家族の意見、要望を伺い運営に反映している。職員は家庭的な雰囲気大切に、利用者の声に耳を傾けながら意見を拾い上げるよう心掛けている。忘年会のお酒はノンアルコールにする等、利用者のやりたいことを続けられるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎のミーティングを毎月開催し意見交換を行なっています。また、計画作成・介護リーダーミーティングを不定期で開催してケアの質向上、業務の改善につながるよう努めています。	全体の会議は行われていないが、各ユニット毎の会議で日頃の業務に関すること、提案など職員の率直な声を聴いている。研修や資格の取得等の希望が叶えられるように勤務調整を行い、職員のやる気とサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しています。必要に応じて個別に面談の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望のあった研修に参加できるよう配慮しています。同法人内で研修委員会があり、勉強会・研修会を実施し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業所連絡会に参加しているが、職員間は法人内のみでしか持っていません。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前やケアプラン作成時にご本人様から意見や要望をお聞きし、安心を確保するための関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族と連絡を取り合い、入居者様の情報やご家族の意見・要望をお聞きしています。要望はホーム内で検討し、出来る限り実現できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居について入居者様の状態や気持ちを大事にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できるような支援を心がけています。食事の手伝いや洗濯等一緒に行い、感謝の言葉を忘れずに支援させていただいています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や何かあったときは状況をお伝えし、毎月の様子をお手紙でお知らせしています。家族との絆を大事にさせていただけるよう行事に参加していただいたりしています。共に本人様を支えて行けるよう努めています。	家族を招待する行事は家族の出席できる希望日を確認することで、多数参加できるよう配慮している。また、事業所の広報誌「かのんだより」を3カ月に1度、家族に送付し活動の写真や日常の様子を添えて情報を伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、近所の方等の面会はいつでもお越しいただけるようにしています。行きつけの美容院へ出かけている方もいます。	訪問美容院を利用する利用者がいる反面、馴染みの美容院との関係も途切れないよう家族と協力しながら支援している。地域行事や近所の交流を通じて、新たな馴染みの関係づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のご様子を観察し、入居者同士の関係を把握し、支えあえるような関係が築けるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談支援に努めるようにしているが、現時点ではその場面がありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない言葉や仕草から思いや希望を感じ取れるような関わりを大切にしています。認知症があってもご本人らしい生活が送れるように考えています。	一人ひとりの利用者の希望や意向、思いの把握は、日々の暮らしの関わりの中で、声掛けや表情、行動から、真意を推し測ることで本人らしい生活支援に繋がっている。家族等からの情報も記録に残すことで、事業所全体の信頼関係に結びついている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や今迄の暮らし方についてご家族やご本人からお聞きし、できるだけ本人らしい暮らしが継続できるように努めています。	利用者の暮らしぶりや生活歴等は、入居前に本人、家族、関係者からの情報を基にアセスメントが行われている。関わりの中では、先入観をなくすことが新たな気づきに繋がること、働いていた時の写真を振り返ることは、家族も本人の趣味や特技を知る機会となり、具体的な支援に生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当・居室担当を中心にユニット職員全員で、利用者一人ひとりの現状を把握するよう日々の暮らし方も含めて毎月のユニット会議にて検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族、担当職員、計画作成が参加する担当者会議で検討し、意見交換を行っています。月に1回担当職員がモニタリングを行っています。	ケアプランはセンター方式を用いて作成され、毎月一回、担当職員がモニタリングシートを活用し、現状に則しているか評価している。その際、職員間の情報も参考にしている。モニタリング総括表は6ヵ月ごとにケアマネージャーが本人、家族の満足度も踏まえて評価している。関係書類は情報共有が何時でも出来るよう管理され、職員間に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子、それについてのケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに対応できるよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方に参加していただいたり、行事にボランティアの方を招いたり、地域のお祭りに声をかけていただきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を当ホームの協力医療機関にするか、今まで通りの主治医にするか希望をお聞きしています。現在、通院が難しい入居者さんの往診をしてもらっています。通院の介助も可能な範囲で行っています。	本人、家族から、かかりつけ医や医療機関の希望や意向を確認している。協力医院が主治医の利用者は、定期的に往診が行われている。厚生連病院は車で10分に位置し、家族の付き添いを基本とし、職員も通院同行している。受診後は、家族に報告、記録にて情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームには看護師がおらず、訪問サービスも利用していません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の病院との情報交換、相談を行い、退院が決まった時は必要時カンファレンスに出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院が長期に渡ったり、常時医療行為が必要となった場合には退去となる旨、入居契約時に説明・同意を得ています。ケアプラン作成時に重度化や終末期の方針をご家族にお聞きし、またかかりつけ医が往診できるかどうかも含め相談支援しています。	入居時のケアプラン作成時には、本人、家族の意向も踏まえ退去となる旨、説明・同意を得ているが、事例には至っていない。過去に、導尿ケアが必要な利用者の最後の数日間までホームで過ごされた貴重な経験も持っている。これらの実践は今後の課題である、重度化・終末期ケアに向けた支援が「出来る力」となっている。	開設4年目を迎え、日々の暮らしの支援を通して、利用者に最後まで「寄り添いたい」気持ちが職員に育ってきている。家族の中に「最後までホームで過ごしたい」との希望や意向もある。さらなる安心に繋がるためにも運営推進会議等で具体的な方針が示されることを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは各自目を通し把握に努めている。普通救命講習を修了していない職員もいるため、緊急事態の研修参加や講習受講の機会を増やしていきたい。	事故、急変時の対応マニュアルも分かりやすく、夜間の緊急時は、管理者、事業所近くの職員の応援とユニット間の協力体制が整っている。また、消防署の協力を得て、AEDの使用方法も含めた複数回の研修は、記録や説明から全ての職員のスキルアップに繋がっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを整備しています。消防本部・地域の消防団にも参加していただき避難誘導訓練を行い、災害備品・非常食も準備しています。	ハザードマップ、防災マニュアル等、災害時の備品、水、非常食も含め、災害対策の備えが整っている。訓練実施の案内は回覧にて周知し、地域の方にも協力してもらっている。避難経路の安全対策も確保出来る準備が整っている。屋外の実際の消火訓練には、利用者も参加している。また、消防団とも良好な関係が築かれており、出初式に招待され実際に参加している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修会に参加し、伝達、周知徹底しています。ミーティングで職員の間言葉かけについて確認しあっています。	事業所全体の接遇研修も行われているが、今年から、「グループホームかのん」に接遇委員会を立ちあげ、「依頼の声掛け・笑顔・同じ目線」を3つの柱とし、職員間で互いに確認し合い、日々のケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声掛けは入居者に主体性を持っていただけるような形で行っています。日常の何気ない会話や仕草から思いを汲み取れるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて日々快適に過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時はそのように身だしなみを整えています。居室に洗面台があるので、いつでも身だしなみに配慮できる環境です。自室に化粧品を置いている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューの掲示を行っています。食事の準備、盛り付け、配膳や片付け等、一人一人の能力によって出来る事を職員と一緒にを行っています。また好みに応じて麺をご飯に替えたり、お粥にしたりしています。	冬期間を除き、食材係を中心に献立作り、利用者と買い物、近所の人からの差し入れや畑の収穫野菜を使い、利用者の発揮出来る力を引き出し食事作りを行っている。お刺身や鰻は外食で個別支援している。納涼会等の大きな行事は、家族の参加もあり共に楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態で提供しています。食事、水分摂取量のチェックを行っています。食欲のない方には食べやすい形態のものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や口腔状態に応じて、介助及び声掛け・見守りのいずれかで口腔ケアをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげない対応を心がけながら、一人ひとりに合わせた排泄の介助を行っています。	アセスメントで個々の利用者の排泄パターンを把握し、画一的なケアにならないよう努力している。必要な支援を行うことが、自立に向けた取り組みと考え、実施時は「尊厳の保持が最大のケア」であることを職員間で共有している。日々の状況把握は、紙のシートを活用し記録はパソコンで保存し確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常で体操をしたり、食事メニューを工夫しています。主治医と相談し下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しつつ、なるべく多くの入居者が短い間隔で週2回以上入浴できるよう努めています。できるだけ本人の希望に応じて、好きな時に入浴できるように心掛けています。	家庭的な浴槽に、重度化対応が出来るように天井走行リフトが設置されている。同姓介護を基本として、週2回、3回、過去には寝る前の入浴等、一人ひとりの個別支援に努めている。季節の菖蒲湯の菖蒲の葉は、家族からの差し入れで行われ、利用者にも喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、寝たい時には寝れる環境づくりをしています。ユニット入居者様の状況に合わせてソファコーナーや畳コーナーをしつらえています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。薬のセット、服薬の確認は常に2人でチェックするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、ゴミを入れる箱を作ることをお願いしたり、カーテンの開け閉めを行ったりと日々の生活に張り合いを持っていただけるよう支援しています。また季節ごとの行事を実施して、ホームの生活を楽しんでいただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、玄関は施錠せず自由に屋外へ出ることができ、敷地内を散歩する入居者様もおられます。天気の良い日は入居者様とドライブや買い物に出かけています。	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、近くのコンビニエンスストアでの買い物や本屋、洋服を買いに「しまむら」等へ行くなど、積極的な外出支援に努めている。えんま市、墓参りや行きつけの美容院等、馴染みの場所にも外出している。また、裏庭の草取り、自宅の様子を見に行くなどの何気ない外出支援は、本人の安心に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭管理はしていません。個人的にお金を持っている方もおり、買い物支援しています。ご家族が財布を確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を受け継いだり、職員が家族へ電話をかけて取り次いでいる。手紙のやり取りは本人の要望に合わせて支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの入居者様に合わせて2箇所ソファコーナーを用意しています、今後も入居者様の生活に合わせた環境をつくって行きたいと考えています。	ユニット共有の玄関フロアの正面には、以前の利用者家族から寄贈された良寛像等3体の木彫りの作品が出迎えてくれる。ユニット間の往来は、近所に気軽に出かけられる様な感じで生活の中に溶けこんでいる。共用空間では、ソファーや畳のスペース、観葉植物も取り入れるなど、ゆったりと寛げる工夫がなされている。利用者作成の絵画、作品、カレンダーは利用者の目線で飾られるなど、利用者への配慮がなされている。利用者の趣味のコーナーは、職員と家族との協力関係作りに優しく貢献していることが気持ちよく感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士、居室に行かれ話をされていることもあります。ソファコーナー、畳コーナー(冬場はこたつを設置)や玄関前に椅子を置き、一人でまたは数人で過ごす空間があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込んで頂き、写真や人形、お花など好みの物を飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	各居室入りロドアの床は、円を描くように異なる色彩を用いたことで、玄関としての機能を持っている。部屋の設えは、洗面台、ベッド、タンスの家具も含めた、お気に入りの椅子や大切な思い出の写真、人形、仏壇等、本人、家族の意向を思いを汲み取った配置の工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、廊下には手すりが設置されています。トイレは分かりやすいように配慮しています。		